

まほらに吹く風に乗って

<日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ>

地域に眠る埋もれた歴史シリーズ (2)

常陸の養蚕神社に行く



ふるさと“風”の会

まほらに吹く風に乗って
＜日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ＞

ふるさと風の文庫

地域に眠る埋もれた歴史シリーズ (2)
常陸の養蚕神社に行く

木村 進

ふるさと“風”の会

(はじめに)

日本に養蚕技術がどのように伝わったのかはまだよく分かっていません。しかし古来より絹が貴重な財産ともなっていたことは知られています。中国が絹を生産し、シルクロードを通じて世界に絹を売る一大貿易ルートが存在した頃から、日本でも絹の製法が伝わっていました。

江戸時代には日本全国に養蚕は広まり、各地の農家では米のほかの貴重な収入源として桑の木を植え、蚕を育て大切に保護してきました。

この養蚕を祀る神社は日本全国にあります、この常陸国の三社がその元になったとも言われています。

そこで、この三蚕神社を訪ね歩いてみました。

どんな景色が見えてきたでしょうか。

(目 次)

(1) 金色姫伝説と常陸国の三蚕神社	1
(2) 蚕影山神社 (つくば市神郡)	4
(3-1) 蚕養神社 (日立市豊浦)	7
(3-2) 小貝浜 (蚕飼浜)	13
(3-3) 館山神社 (日立市川尻)	17
(4-1) 蚕霊神社 (神栖市)	22
(4-2) 蚕霊山星福寺	26
(5) 静神社 (常陸国二の宮)	29
(6) 長幡部神社 (常陸太田)	36
(7) 大桑神社(結城市小森)	43
(番外 1) ねこ神様	47
(番外 2) 石岡市イベント広場の変遷	49

(1) 金色姫伝説と常陸国の三蚕神社

常陸国には日本の養蚕(蠶)神社の元となる「常陸国の三蚕神社」がある。これらは皆、それ程大きな神社ではなく、また古くからある神社だが創建などはよくわからない。

しかし、養蚕が日本各地に広がるにつれ、養蚕を信仰する神社が日本全国に建てられた。そしてこれらの神社はこの常陸国三蚕神社を元社として分霊されたものが数多くある。

当然、延喜式の式内社に選定されている会津若松の「蚕養國神社」(会津のこがい様)など蚕養蚕守護の総本社と称している神社もあり歴史からどちらが古いかなどということはよく分かっていない。

(常陸国の三蚕神社)

- 1) 蚕影山(こかげさん)神社：つくば市神郡 1998 (日本一社)
- 2) 蚕養(こがい)神社：日立市川尻町 2377-1 (日本最初)
- 3) 蚕霊(さんれい)神社：神栖市日川 720 (日本養蚕事始)

三ヶ所の神社すべてに、地名として豊浦と呼ばれる場所に有り、金色姫伝説の説明看板が掲げられている。

(金色姫伝説)

各地に伝えられている伝説は少しずつ違ってはいるが、概略はほぼ同じで、次のようなものである。(筑波の蚕影山神社の説明板より抜粋)

「5世紀頃の話です。天竺(インド)にリンエ王という帝がおり、金色姫(こんじきひめ)という娘がいました。

しかし后が亡くなり、後添えにきた新しい皇后はこの金色姫を憎み、帝のいない時に、山の中に金色姫を置き去りにしたり、島に流したりしますがうまくいきません。

そこで今度は庭に生き埋めにしてしまいます。しかしこの庭から光がさし、帝がそれに気がついて助け出しますが、姫の行く末を心配して、泣く泣く中が空洞になった桑の木の船に姫を乗せて海に流したのです。

その舟は荒海にもまれながらも漂流して日本の豊浦という地に漂着しました。

そして地元の漁師夫婦に助けられて金色姫は大切に育てられました。

しかし、姫はその後病で亡くなってしまいました。

夫婦は深く悲しんで、清らかな唐びつを創り、姫のなきがらを納めました。するとある夜、夢の中に姫が現れ、「私に食物をください。後で恩返しをします。」と告げました。

そこで唐びつを開けると、姫のなきがらは無く、たくさんの小さな虫になっていました。

丸木舟が桑の木であったので、桑の葉を採って虫に与えると、虫は喜んで食べ、成長しました。

そしてマユを造りました。マユが出来ると、筑波の仙人が現れ、マユから糸を取る方法を教えたといひます。

この漁師夫婦は、この養蚕で栄え、豊浦の河岸に、御殿を建て、姫の御魂を中心に、左右に富士、筑波の神をまつて、蚕影山大権現と称したといひます。これがこの蚕影山神社のはじめです。」

これは筑波の蚕影山神社の説明ですが、その他の2か所も地名などの違いはあれはほぼ同じ内容です。

このインドで金色姫がいじめられる様子などは蚕の成長の過程を表しているものと解釈できます。

この話の出処は享和 2 年（1802）の「養蚕秘録（全三巻）」のなかに書かれている話が元になっているようです。

この書物は今の兵庫県(但馬の国)養父郡の上垣守国(うえがきもりくに)が18歳の時に、奥州（今の福島）で蚕種を買い求めて、研究し、蚕の起源から種類、伝説、飼育法等を絵入りで解説してまとめた書物で、その中にこの伝説が載っているのです。

上垣守国の偉業を記念して兵庫県養父郡大屋町に「上垣守国 養蚕記念館」が建てられています。

また海外でも日本の養蚕技術については早くから注目され、この本はオランダ、フランス、ドイツ語などに翻訳されて古くからヨーロッパに広まっていたといわれています。

(2) 蚕影山神社(つくば市神郡)

筑波の六所神社に行く時に手前の神郡にある「蚕影山(こかげさん)神社」(蚕影山桑林寺)というところに寄った。

この神社もかなり古くからある神社で名前の通り養蚕業のシンボリックな神社で、各地にある蚕影神社の中心になっているところだ。



また入口の社務所というより一般の住居のような建物(春喜屋)を覗いてみると、中の机の上にはお守りなどが置かれており、壁には映画のポスターが貼ってあった。「ガマの油」である。

役所広司が初監督と主演をしている2009年の映画だ。
この神社の前でガマの油売りの口上を撮影したという。
なかなか渋いところで撮影したものだ。

今回も、このような古臭い神社であり、誰も来てる人もいないと思ったが、ひと組の男女が車でやってきていた。

どうも一般の神社好きな人とはかなりイメージがちがった。

映画のロケ地と知って都会から来たのかもしれない。

一緒に神社への階段を上って上に行くと女性から携帯をさしだされて「写真を撮ってください」と頼まれた。

また「いいところですね」とも。

私はこのような人が訪れないような寺や神社を訪ねまわっているのが好きなところではあるが、「よいところですね」といわれると少し首をかしげてしまう。

地元の人ではあまりこのようなことは言わない。



常陸国は古くから養蚕業が盛んで、養蚕にまつわる地名や神社が多数残っている。鬼怒川は絹川・衣川、小貝川は蚕飼川など養蚕にまつわる名前が変化したものともいわれている。

金色姫の伝説は、日本に養蚕技術をもたらした伝来の地＝豊浦はどこかということ これらの三社がそれぞれ主張していることになる。

蚕影山桑林寺（蚕影山神社）は、「蚕影山信仰」の総本山で、世界大百科事典には「全国各地にある蚕影山信仰は、茨城県の蚕影山神社の信仰が流布したもので、この神社の縁起として、養蚕および蚕神の起源を説く金色姫の物語が中世末から近世にかけて語られていた。御伽草子《戒言（かひこ）》もその一つである」と書かれている。

